

平成30年度 各分掌部・学部目標及び自己評価

NO. 1

A…十分達成できた B…おおむね達成できた C…あまり達成できなかった

	目 標	具体的な取組	評価の観点	評価	自 己 評 価	改 善 方 策
教務部	①本校の教育活動の理解促進に向け、学校だよりを活用した保護者及び地域社会への情報発信を行う。	・保護者及び地域社会向け学校だよりをそれぞれ作成する。保護者には各分掌部の取り組み及び学校課題について取り上げて配付し、地域社会には本校紹介を中心に取り上げ地域の回覧板を活用した情報発信をする。	・定期的な学校だよりの発信ができ、本校教育活動の理解につながる情報発信ができたか。	A	・保護者向け学校だよりは年4回発行、地域社会向け学校だより(こぶしだより)は年3回発行することができた。それぞれの学校だよりで保護者や地域社会に伝えたい内容を取り上げたことで本校と本校教育の理解につながった。	・次年度も継続して保護者及び地域社会向けの学校だよりを発行していく。地域社会向け学校だより(こぶしだより)は、地域支援部地域連携係と連携して作成を進める。
	②児童生徒が主体的に学習できる授業の実践を図る。	・児童生徒が楽しく意欲に満ちて学習に取り組めることを目指した、児童生徒にとって分かりやすい授業を実践するための授業見学や授業研究を行い、指導に活かしていく。	・児童生徒の実態を的確に把握し、児童生徒に分かりやすいような教材と授業の進め方を工夫した授業を実践することができたか。	B	・学校課題を中心として授業の実践、授業見学、授業研究を行った。授業研究での意見は、次の授業に活かせるようにまとめ、教材等にも工夫をしながら授業を実践できた。	・児童生徒が分かりやすいように授業のめあてや振り返りをきちんと行うことを一年間繰り返してきた。次年度もそれを継続し児童生徒の意欲を促すとともに、よりよい授業の実践に努めていく。
学習指導部	①教育活動全体における道徳教育の推進を図る。	・道徳の指導目標を意識した授業展開をするよう啓発を図ったり、評価の観点について理解を図ったりする。	・年間指導計画の中に指導の観点が盛り込まれたか。また、評価の観点について職員で共有することができたか。	B	・新学習指導要領における道徳の指導について周知を図り、年間指導計画や単元指導計画の中に指導の観点について盛り込むことができた。しかし、指導内容と観点がずれているものも見られた。	・学習指導部を中心に、教科等連絡会等を活用して見直しを図る。
	②自立活動の指導の充実を図る。	・指導目標の立案や指導方法について校内研修会や事例検討会を実施したり、外部専門家の有効的な活用をして指導に活かしたりする。	・自立活動の指導について理解が図れたか。外部専門家と連携が図れたか。	B	・小学部では取り出しの指導が定着してきており、外部専門家を招いた事例検討会を実施し効果を上げている。また、自立活動の目標設定シートを用いた指導目標の立案方法について校内研修を実施した。しかし、十分な活用には至っていない。	・次年度は、事例検討会や外部専門家の活用を中・高等部でも実施する。また、目標設定シート活用の校内研修を各学部ごとに実施する。
児童生徒指導部	①危機管理マニュアル内の児童生徒指導部関連の項目について整理、見直しを行う。	・係ごとに関係するマニュアルについて十分チェックし、改善を加えながらより効果的に運用できるようにする。	・問題点を洗い出し、検討・改善しながらわかりやすくまとめることができたか。	B	・各係ごとに関係するマニュアルをチェックし必要に応じて検討、改善を行うことができた。見る機会を増やすことで内容に関して共通理解を図ることもできた。	・年度内には必ず各マニュアルのチェックを行うようにして不備のないようにするとともに職員間で内容に関する意識を高められるようにする。
	②避難訓練、引き渡し訓練等各種訓練の実施及びそれらに関連する内容の検討、改善を行う。	・各種訓練について現状に合った新しい取り組みを検討しながら実施していく。また、保護者からの意見や要望に関してもその都度対応を検討し、周知していく。	・新しい取り組みについて全職員の共通理解の元で実施することができたか。保護者に対しても説明や協力依頼等を十分に行うことができたか。	B	・新たに緊急地震速報を利用した避難訓練や係内で消火訓練を実施した。事前に職員に実施内容を十分説明し協力を依頼しながら行うことができた。また、係内で実施した消火訓練についても内容を職員に周知することができた。	・各種訓練に関する実施内容について保護者に周知するとともに実施後に保護者からあがってきた意見を参考にしながら次回につなげていくようにする。

	目 標	具体的な取組	評価の観点	評価	自 己 評 価	改 善 方 策
地域支援部	①地域や関係機関のニーズについて、係間の情報共有と活用を図る。	・地域の関係機関との会議や研修、関連する事業等で得た情報を目的別に整理する。	地域から得た情報を目的別に整理し、係間の共有化を図ることにより、地域のニーズに応じた支援に活用できたか。	B	・特別支援教育連絡会での情報交換だけでなく、センター的機能充実事業での研修や巡回相談、関係する会議でのアンケートや質問事項等を目的別に整理することができた。	・今年度収集した情報をもとに、地域のニーズに応じた研修内容の見直しを行う。また、本校が行う地域支援について、連絡会にて丁寧な説明を行う。
	②地域からの情報収集及び、地域への情報発信の充実を図る。	・自治会組織と連携した情報発信を行うとともに、地域情報の周知方法を工夫する。	・市町の担当者と連携し、自治会に向けた情報発信を行うことができたか。また地域情報の職員への周知を実践できたか。	B	・回覧板を活用したボランティアスクール生募集や学校だよりの発信を行うことができた。 ・校内掲示板やシェアポイントで地域情報を職員に発信できた。	・情報発信を継続して行い、定着化を図る。 ・今後も校内での情報発信を継続して行い、周知を図る。
健康指導部	①健康教育の取り組みの推進を図る。	・外部専門家を活用し、課題や指導についてのアドバイスを受け、実践していく。	・外部専門家によるアドバイスなどを日頃の指導に活かすことができたか。	B	・性教育、歯科指導に加え新たに薬物乱用防止教室を実施し、外部講師による指導を行った。校内での指導に活かすことができた。	・性教育に関することなどは保護者への啓発を促進するために、保護者へ参加を呼びかけてることを検討していく。
	②感染症予防なども含め、日頃から安全な環境整備を図る。	・トイレや教室などの清掃、手洗いや消毒などの遂行を図る。	・安全な環境整備に対する教職員の意識を高めることができたか。	B	・児童生徒の発達段階に合わせ手洗いや消毒などの遂行を図ったり、清掃などの環境整備にも目を配ることができた。	・日頃から感染症などの予防や安全な環境整備について意識を高め、対応していく。
進路指導部	①小学部から高等部まで系統性をもった指導の充実を図る。	・職業教育で作成した指導マニュアルを各学部の実態に合わせて改良や新たに作成し、活用する。	・マニュアルを活用して指導したことで児童生徒に分かりやすく、その方法が身に付いたか。	B	・マニュアルの方法が身に付くには、個人差があったが、手の洗い方や雑巾の絞り方、清掃の仕方などで一定の成果があった。	・マニュアルについては教職員間で共通理解をし、児童生徒の実態に合った方法を取り入れていき、引き続き指導の充実を図っていききたい。
	②現場実習、職場体験等の受け入れ先事業所や校内実習での受注作業を確保する。	・関係機関や就労支援コーディネーターと連携し職場開拓や受注作業の開拓を行う。	・関係機関や就労支援コーディネーターと協力して実習受け入れ先事業所、受注作業を確保できたか。	A	・関係機関や就労支援コーディネーターと連携して、生徒の希望する実習先や受注作業の確保ができた。	・引き続き関係機関等と連携をして、職場開拓を進めていきたい。
渉外部	①PTA活動を推進する。	・見通しをもって活動に参加できるように、年間活動計画を作成し、配付する。	・専門部長を中心に、見通しをもって活動することができたか。	B	・年間活動計画を配布したことによって、概ね見通しをもって、それぞれの専門部が活動できた。	・役員改選において、保護者全員に、役員の自薦他薦のアンケートを配布し、多くの意見を取り入れるようにする。
	②全知P連栃木大会を開催するにあたり、校内体制の基礎作りをする。	・役員会等において、進捗状況を報告する。また、校内の実行委員会を立ち上げて、校内体制についての共通理解を図る。	・平成31年の開催に向けて、理解や啓発に努めたことにより、保護者や教職員の協力体制が図られたか。	A	・全知P連栃木大会についてPTA役員会で進捗状況を報告したり、学校だよりで全保護者に概要を掲載したりすることができた。校内委員会は3学期に立ち上げる。	・開催に向けて、校内の運営組織を具体化して業務にあたりとともに、保護者にも協力を呼びかけ、一丸となって大会を成功させるようにする。

	目 標	具体的な取組	評価の観点	評価	自 己 評 価	改 善 方 策
特別活動部	①各活動を通して児童生徒の豊かな心を育成する。	・各自に集団の一員であることを意識できるように協調性や向上心を育てる活動を実践していく。	・運動会や交流学习発表会、児童生徒会活動や部活動等において、児童生徒が充実した活動を行うことができたか。	B	・それぞれの行事において児童生徒が生き生きと活動する姿が見られていた。	・行事の反省やアンケート、及び学校評価アンケート結果を参考にしながら、更に充実した活動ができるようにしていく。
	②児童生徒の活動や部活動の活動状況を保護者全般に広めていく。	・ホームページを利用して、児童生徒会の活動や部活動の状況及び各種大会の結果報告等の情報発信を行う。	・情報を随時発信して伝えることができたか。	B	・ホームページでの情報発信は行うことができた。	・学校評価アンケートにおける結果を踏まえながら改善していき、保護者への情報発信をしていく。
情報部	①教職員の情報セキュリティに関する意識を高め、情報を適切に管理運用する。	・情報機器（USBも含む）の管理を適正に行い、教職員の情報セキュリティの意識の向上を図る。	・情報を適切に管理運用し、教職員の情報セキュリティの意識の向上を図ることができたか。	A	・USBの管理方法について見直しを行った。職員番号とUSBの番号を合わせることで、使用状況が分かるようになった。	・セキュリティポリシーの改定に併せて、管理方法について適時見直していく。
	②教職員のSNSに関する知識理解を深める。	・児童生徒のSNSに関するトラブル防止のため、研修会を通して教職員のSNSに関する知識理解を深める。	・校内研修等の機会をととして、SNSに関する知識理解を深めることができたか。	B	・夏期研修で外部講師を招き、SNSの基本的な知識を学び、理解を深めることができた。	・児童生徒の実態に合わせて、授業等で指導していく。

	目 標	具体的な取組	評価の観点	評 価	自 己 評 価	改 善 方 策
小学部	①様々な学習場面を通して、道徳教育の指導の充実を図る。	・本校の道徳教育全体計画及び道徳教育目標や内容を踏まえ、指導を行う。	・年間指導計画や単元指導計画の作成を行うことで、段階を踏まえた計画的な指導を行うことができたか。	B	・年間指導計画や単元指導計画に道徳の指導の観点を記入することができた。しかし、作成後に記入したので、計画的な指導に繋がりにくかった。	・次年度は、道徳の指導の観点を踏まえて作成を行い、段階を踏まえた計画的な指導に繋がるようにする。
	②小学部における学校課題研究の方向性について共通理解を図り、小学部全体で取り組む。	・キャリア教育における「人間関係形成能力の育成」を意識した授業を実践する。	・事例検討会の実施や実践報告書の作成を通し、キャリア発達段階に基づいた授業展開や支援の工夫をすることができたか。	A	・各ブロックにて授業研究会の実施や実践報告書を作成することで、普段の授業におけるキャリア教育について意識し、支援を行うことができるようになってきた。	・キャリア教育の発達段階を踏まえ、各学年、学級の実態に応じた支援の方法について検討する。
中学部	①生徒の自発的に発信して伝える力を育成する。	・実態に応じた目標を決め、学習の中で意思や情報などを伝える場面を設定する中で、個に応じた方法を探り共有して指導する。	・実態を踏まえた目標を設定し、目標を意識して指導にあたり、伝える力を伸ばすことができたか。	B	・個々の生徒の実態を踏まえた目標を設定し、具体的な場面や方法を明らかにして指導を行ってきた結果、限定された場の中ではあるが、ほとんどの生徒に伝える言動の兆しが見えてきた。	・まだ、変化が現れてきた段階であるので、今年度の指導を反省、修正して継続していく。
	②キャリア教育について共通理解を図り学校課題研究に取り組む。	・教員一人一人が具体的なキャリア教育の意識をもって授業に臨み、自他の指導について振り返りながら改善を図る。	・中学部教員一人一人がキャリア教育の意識をもち、自他の指導を振り返り改善することができたか。	A	・係を中心に、指導計画への観点記入や授業作り等の話し合いを通して自他の指導を振り返る機会ができ、作業学習においては教員が共通の意識をもった指導ができた。	・今年度の研究を基に効果のあがった要因や指導方法等を再度共通理解し、指導場面を広げて継続していく。 ・教員一人一人の研究意識を高めていく。
高等部	①卒業後の職業生活、家庭生活を豊かにするための指導の充実を図る。	・ビジネスマナーや接客サービス、性に関する指導など外部専門家を活用した講習会を実施するとともに、とちぎの高校生「じぶん未来学」を取り入れた授業を展開する。	・外部専門家を活用した講習会の実施ができたか。また、各教科等や日常の指導で活かすことができたか。	B	・外部専門家活用の講習会は予定通り実施ができ、回数を重ねるごとに、成果が上がってきている。 ・「じぶん未来学」と関連付けた授業は行っているが、テキストの利用や「じぶん未来学」の教材研究が不足がちであった。	・外部専門家を活用した講習会を継続していく。 ・授業の年間計画を確認して、「じぶん未来学」と結びつけた授業の展開をしていく。
	②学校課題研究のまとめにあたり、学部全体での研究を実践し、成果と課題を明確にする。	・校内実習及び産業現場等における実習での評価をもとに、社会生活に必要なとされる能力の向上を目指し、作業学習のみならず各教科等での実践に取り組む。	・効果的な研究実践ができたか。	A	・係や委員が中心となり、一人1研究授業を実践したり、全員で研究協議をしたりして、学部全体で学校課題に取り組むことができた。	・今年度の研究の成果と課題を引き継ぎ、次年度の指導に役立てていく。